

平成 24 年 度

事 業 計 画 書

財団法人 日本サイクルスポーツセンター

平成24年度事業計画

文部科学省が発表した「スポーツ振興基本計画」には、①スポーツの振興を通じた子どもの体力の向上、②地域におけるスポーツ環境の整備充実、③我が国の国際競技力の総合的な向上が謳われているが、これらは、まさに本センターが実施すべき事業そのものである。

一つ目は、『自転車を中心とした生涯スポーツ施設』の実現 — 本センターの恵まれた環境、充実した自転車、蓄積したノウハウを最大限に活用して、様々なタイプの自転車や自転車関連諸施設が安全かつ本格的に体験でき、サイクルスポーツに親しめる場とソフトを提供し、サイクルスポーツの普及と利用者の体力及び健康の増進を図る。

その推進のため、伊豆ペロドロームの本格的な活用、BMXコースやMTB上級者コースの一般開放、おもしろ自転車及びファミリーサーキット用レンタサイクルへの新車導入等、自転車プログラムの充実を図るほか、遊園地的要素も融合しつつ、自転車愛好者は勿論のこと、現時点では自転車に興味はなくとも、将来的に自転車愛好者となりえるような人々にも自転車の国へ足を運んでいただけるよう、地道な誘客促進活動を続ける。

二つ目は、『自転車による地域興し』の実現 — 地元との連携を密にし、本センターがエリア振興の拠点となって、地域の活性化を図ることも重要な使命である。

その実現に向け、まずは、地域住民の自転車熱を高めるため、地元小中学生への自転車競技体験プログラムの提供や自転車競技をテーマにした高等学校の「ライフスポーツ授業」の受入れを行うなどの方策を講ずることとする。

これらに加え、“伊豆をサイクルスポーツ・サイクルレジャーのメッカに！”を合言葉に、地元伊豆市と自転車関係団体とが一体となって取り組んできたサイクルメッカ推進事業についても、更なるリーダーシップを発揮し、一過性ではなく、恒常的な効果が期待できるような新たな事業展開を提案し、伊豆地区への入込客の増員に努める。

一方、公益法人制度改革への対応に関しては、「一般財団法人」を選択し、年内には移行を完了すべく、本年6月を目途に移行認可申請書の提出を行うこととする。

本年度における重点事業は、次のとおりである。

- 自立に向けた新たな経営計画の策定と一般財団法人への移行
- 安定的な財政基盤の確立
(入場者の誘客促進、料金システムの見直し、繁閑に応じた執務配置、外部発注の削減と自主作業範囲の拡大ほか)
- 伊豆ペロドロームの本格的な活用
- 自転車プログラムの充実 (MTBコース、BMXコース、5キロサーキットほか)
- インターネットを活用した積極的な情報の発信
- 地元活性化事業への協調

なお、事業の実施にあたっては、一部、財団法人JKAに対し、公益事業振興資金の補助(自転車競技の普及促進事業、全国的なスポーツ大会の開催、青少年の健やかな成長を育む活動)を申請する。

1. サイクルスポーツを中心とする総合的な施設の運営

(1) 各種施設の提供

“安全性の確保”と“満足度の向上”をスローガンとして、5キロサーキット、MTBコース、伊豆ベロドローム等の自転車競技施設及びおもしろ自転車、水上自転車、サイクルモノレールを始めとする自転車体験型施設並びに多目的ホール、DAYキャンプ場、流水プール等の、その他諸施設を一般へ提供し、サイクルスポーツの普及と健康の増進を図る。

(2) 自転車プログラムの充実

現行では自転車持込み利用専用となっているBMXコースとMTB上級者コースについては、本センターのインストラクターが引率するなど、安全対策を施したうえで一般開放を開始する。

また、本センターに来場しなければ乗ることのできない自転車を提供することをコンセプトに、チャレンジコースとしての5キロサーキットや、最も人気度の高いおもしろ自転車の更なる充実や、家族連れで楽しむことのできるファミリーサーキットに配備するタンデム車の増車など図り、施設ごとの特色を明確化する。

2. 自転車競技並びにサイクルスポーツの普及奨励

(1) アジアサイクリングセンターの運営

ア. 国内トレーニングキャンプ

UCI国際自転車競技連合支援事業として、アジア各国からオリンピック参加可能な、あるいは可能性を有するトラック競技者及び指導者約15名をCCC修善寺に集め、年2回、各々2週間程度の訓練研修を行う。

イ. 移動サブセンター

タイ王国にCCC修善寺のコーチングスタッフを派遣して、当該地域の競技者及び指導者を対象に、年1回、12日間程度、ケイリン競技を含むトラック競技の指導を行う。

(2) 自転車競技大会及び合宿の開催と受入れ

オリンピック競技大会の自転車競技全4種目の訓練あるいは体験が可能な環境が整っている本センターの利点を活かし、各種自転車競技大会を企画・開催するとともに、他団体が主催する様々な自転車競技大会に会場を提供し、その開催に協力する。

[主催大会]

- ・5時間耐久チームサイクルロードレース大会
- ・チャレンジカップCSCサイクルロードレース大会
- ・MTB24時間耐久レース大会
- ・夏季及び冬季トラック自転車競技大会
- ・BMX競技大会

[他団体が開催を予定している主な大会]

- ・ チャレンジサイクルロードレース大会
- ・ ツアー・オブ・ジャパン伊豆ステージ
- ・ JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会・トラックレース
- ・ 全日本自転車競技選手権大会・トラックレース
- ・ 全日本BMX選手権大会

この他、本年度はオリンピックイヤーでもあることから、ナショナルチームを始め、大学や高等学校の自転車競技部等、各種自転車競技団体の合宿を積極的に誘致し、受入れを行う。

(3) 伊豆サイクルスポーツクラブの運営

本センター独自に伊豆サイクルスポーツクラブを運営し、原則月3回ずつ、トラック競技、MTB競技、BMX競技の実技指導を行う。

なお、同クラブの活動理念は次のとおりである。

- ① 地元伊豆市の「スポーツ少年団」に登録し、地域と密着した活動を展開する。
- ② 自転車競技の初心者からトップアスリートを目指す者まで、老若男女幅広い層の競技愛好者を受け入れる。
- ③ 定期的に記録会や競技会を実施するほか、本センターが主催する各種大会への参加を促し、会員の練習意欲の向上を図る。
- ④ この他、各種自転車競技のスクールを開催し、競技者層の拡大を図る。

(4) 自転車競技の地域普及啓発活動

本センターに在籍する自転車競技の公認コーチ・インストラクター及びプロライダーを活用し、地元住民へロード・トラック・MTB・BMXの競技体験プログラムを提供することにより、自転車競技と触れ合う機会を与え、伊豆地域における自転車競技の普及啓発に努める。

この中で、小中学生については、地元教育委員会を介して事業を進めることとし、送迎経費を負担する招待型体験会を年3回程度予定するほか、各学校へ出向いての出張型体験会も準備する。

(5) 木製トラック体験試乗会の開催

伊豆ペロドロームは、日本初の屋内型板張りトラックであることから、その注目度は高く、自転車競技者から一般自転車愛好者まで、一度は走ってみたい憧れの施設となっている。

そこで、自転車競技愛好者の底辺拡大のためにも、夏季2回、冬季1回の年3回、小中学生を対象にした屋内型板張り250mトラックの体験試乗会を開催する。

(6) 自転車スクールの開催

自転車愛好者の底辺拡大を図るため、自転車に乗れない女性を対象にした1泊2日の乗り方教室を6回、小学生を対象にした日帰りの乗り方教室を6回開催する。

(7) 各種イベントの開催

ア. 自転車関連イベント

各シーズンの集客イベント開催時に、間近でMTB・BMX・一輪車等自転車の魅力や楽しさが満喫できるような「観覧型自転車イベント」を併せて開催し、自転車愛好者の底辺拡大に努めるほか、自転車の国ならではの自転車関連イベントを開催する。

- ・3時間耐久一輪車レース大会
- ・ユニサイクルトライアル&マウンテンユニサイクル大会
- ・5キロサーキット一輪車マラソン
- ・紅葉サイクリング

イ. スポーツイベント

自然環境に恵まれた本センターの自転車競技訓練施設等を会場にして、ウォーキング大会やマラソン大会を開催することにより、スポーツへの参加機会を増大させるとともに、スポーツ愛好者にサイクルスポーツの存在を認知させる。

また、多目的ホールにおいて、伊豆地区のフットサル愛好者を対象にした夏季及び秋季リーグ大会や、同じく伊豆地区の小中学生等を対象にした冬季オープン大会を計画し、フットサルを通じた地域スポーツの振興を図る。

ウ. 健康増進イベント

ウェイトトレーニング場の一般開放と併せて、本センターのスタッフによる様々な健康体づくり講座を定期的に開催し、近隣住民の健康増進に寄与するとともに自転車の健康面での効用も併せて啓蒙する。

このほか、地元行政が推進する健康増進事業「特定高齢者への筋力向上トレーニング」への会場提供と指導協力を行う。

(8) 広報及び誘致活動

パソコンや携帯電話の普及が著しい現況に鑑み、様々な情報を簡単に不特定多数の者へ到達させることのできるなど、最も高い費用対効果が期待できる“インターネット”をフルに活用し、ホームページの充実・検索エンジンの増加・他のホームページとのリンク・情報メールの発信等を積極的に行い、営業メニュー・レンタル自転車・競技大会・イベント・各種スクール・季節毎の見所等各種自転車の国の情報をタムリーに発信していく。

併せて、自転車競技大会やイベントの開催時には、新聞・雑誌・パンフレット・チラシ等を媒体とした広告宣伝を実施するほか、各種報道機関や地元行政機関に対して、積極的な情報提供を行い、パブリシティ活動を推進する。

この他、首都圏に対しては、経験豊富な専属の担当者を配し、旅行代理店・官公庁・大手企業・学校等への販売促進活動を展開する。一方、静岡県東中部地区の旅行代理店並びに伊豆半島一円の宿泊施設・幼稚園及び保育園も定期的に案内資料を提供し、誘客促進を図る。

3. サイクルスポーツに必要な自転車等に関する研究

(1) 各種自転車の利用データ収集

自転車に関する総合的な施設の運営を行う本センターの特性を効果的に活用し、不特定多数の来場者から、レンタサイクルとして使用している市販自転車の機能・デザイン等、選択要素に関する各種データを収集したうえで、その結果を自転車メーカーにフィードバックし、自転車産業の振興に寄与する。

(2) 自転車愛好者のニーズ・意識調査

自転車に対して利用者が抱くニーズや不満、日常生活における自転車利用の実態等についてのアンケート調査を実施し、そのデータを広く関係機関に情報提供することによって、人気が高く利便性に秀でた自転車の開発に貢献する。

4. ナショナルトレーニングセンター（NTC）競技別強化拠点施設の活用

文部科学省との委託契約並びに財団法人日本自転車競技連盟の強化方針に基づき、ナショナルチームが万全な態勢でロンドンオリンピック大会へ臨めるよう、NTC自転車競技強化拠点施設として、出来る限りのサポートを実施する。

5. その他

上記以外の業務についても、必要に応じて適宜行う。